



令和5年8月16日

南相馬市議会議長 平田武 様

会派名 尚友会
代表者氏名 太田 淳一

調査研究報告書

- 1 期間 令和5年8月2日（水）～令和5年8月4日（金）
- 2 参加者 ①太田 淳一 ②平田 武
③細田 廣 ④大岩 常男
⑤ ⑥
- 3 旅行先及び調査研究内容 別紙のとおり

別紙

調査研究内容

月日	令和5年8月2日（水）～令和5年8月4日（金）
旅行先	広島県府中市、三原市
調査研究事項	ふるさとワーキングホリデー事業について他
〔内容〕	
○3日（木）（10：00～11：30）広島県府中市役所	
ふるさとワーキングホリデー事業について	
対応者：府中市観光・地域ブランド推進課地域振興係 係長 渡辺 一未氏	
同 主事 奈良木 亜美氏	
府中市版ふるさとワーキングホリデー事業は、令和3年度から行っている。事業を行うきっかけは、令和2年度までは、広島県主催の移住推進フェアやアンテナショップで市のPRや移住に関するイベントを行ってきたが、移住までには至らなかったことから、移住を進めるのではなく、おためしで来てもらうという目的で本事業を始めた。	
令和3年度は、コロナ禍で参加者が2名と少なかったが、令和4年度は14名に増加した。参加者の8割は東京都、神奈川県、埼玉県からで、残り2割は大阪圏からで、大学生や社会人が参加している。男女比は女性7割、男性3割、最高齢は52歳で、参加理由は、大学生は夏休みの思い出作りのために友人と参加、社会人は就職先を探している、転職を考えている人が参加している。	
課題としては、短期間のため受け入れできる業種が農業、福祉などに限られている。他業種からは、即戦力が欲しいとの声があり、参加事業者が広がらない現状である。また、参加者からは、移動する手段（車等）が無い、Wi-Fi環境が無い、勤務先までの公共交通が無い、休日に出かけられない等の意見があった。	
○4日（金）（10：00～11：50）広島県三原市役所、本町地区	
空き店舗・空き家活用、起業支援事業について	
対応者：三原市経済部商工振興課商工振興係課長補佐 本林 一磨氏	
株式会社まちづくり三原統括マネージャー 泉 太貴氏	
三原市は、トスコ、帝人、三菱重工業の企業城下町で発展してきたが、撤退により人口減となり、10ある商店街では、廃業等のため組織はあるが会員数が減少し、空き店舗が増加したことから、平成18年に中心市街地活性化基本計画（第一期）を策定し、駅前の撤退した百貨店跡地に公民複合施設を新設したが、周辺の商店街への誘客が思う	

ようにいかなかった。そこで、平成１２年度から実施している中心市街地魅力向上支援事業を、平成２６年度からは中心市街地以外でも実施するようにした。

中心市街地魅力向上支援事業の補助金は、新規出店事業者は家賃・改装費補助、既存事業者は改装費補助であるが、補助金申請に当たり、電話、メールでの相談は受け付けていなく、あくまで面談のみとしている。また、事業実績で飲食店が多く占めている理由は、居抜き店舗が多く短期間で事業開始ができること。また、短期間収益が見込めることからである。さらに、飲食店が多いことから、平成３０年度からは、雇用や営業時間の条件を満たした場合３年補助と増額した。

中心市街地魅力向上支援事業では事務所設置は対象外となっていることから、サテライトオフィス誘致事業補助金を創設し、廃校をおためしオフィスに改装し誘致を図っている。

今後の課題は、事業継承にあたり後継者が不足している。商店街組織に加盟しない。商店街同士の横の連携が無い。人材育成が必要との事であった。

市役所での説明の後、本町地区空き家対策事業の現地視察を行い、改装中の空き家で説明を受けた。

尚、詳細については提供された資料を参照いただきたい。